

認められる。簡易測定による PF 2.5 時の水分は有効水分力を知る上で重要であるが、火山灰土壌は 40～50、非火山灰土壌は 20 前後となりこれにも差が認められる。

各苗畑土壌の物理性やキャリブレーション曲線から考えると火山灰土壌は耐乾性や保水性が他の土壌と比較して高いように思われる。他方試験苗畑の火山灰土

壌は多分に洪積層土壌の影響を受けていると推察される。

これらの結果から、苗畑土壌の良否を判断すると甘木 3, 7, 8, 福岡 10 等が通気透水性に優れた保水力のある、苗木の根系発達を可能にする良い土壌であり、甘木 10, 福岡 2 等は逆に悪い土壌であると考えられる。

## タネを大きき別に分けおおい土の量をかえたヒノキの発芽について

福岡県林業試験場 川 島 為 一 郎

### はじめに

苗畑に播種されるタネは大きさに差のあることは多くの人によって認められている。このようなタネの大小による差は苗畑において、おおい土の量をかえることによって、どのような発芽をしめすかについて検討したからその概要を報告する。

### 材料と方法

44年10月採取の県稚苗生産用ヒノキタネを試料として、2.83mm, 2.38mm, 2.00mm, 1.68mm, 1.41mmの各試験用フルイを組合せてフルイわけ、そのタネを0.97比重液（ベンジン十四塩化炭素により調製）に浸漬し、沈んだタネを材料として使用した。（2.83mmと1.41mmのタネは試料が少なく試験用より除外した）

おおい土はあらかじめ2mmのフルイによってフルイとおし、試験区20cm×20cmに40cc（1）、120（3）、200（5）、280（7）、360（9）、440cc（11）の量をおおい土とした。（（ ）内の数字は1m<sup>2</sup>のℓ）試験区およびおおい土はクロールピクリン燻蒸しガスを発散させ4月14日に播種した。反覆は3回とし、床面に直接寒冷紗をおおいとして使用、発芽開始と同時に発芽状況を2～3日ごとに調査した。

### 結果及び考察

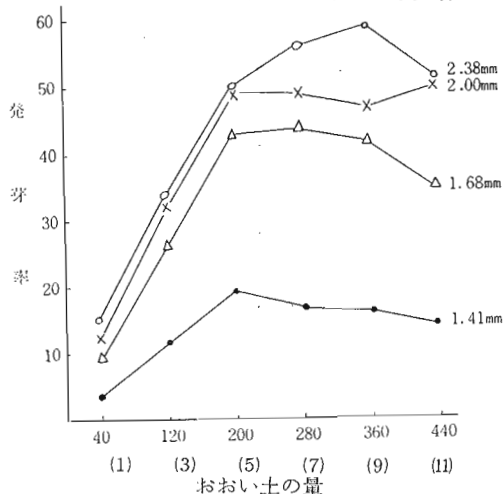
タネ 100g のフルイ目による比重選まへの内訳を%であらわせれば 2.83mm=0.9%, 2.38mm=23.7%, 2.00mm=43.5%, 1.68mm=25.4%, 1.41mm=5.3%, 以下 1.2%の比率であった。

比重選によって沈んだタネを切断して健全粒と認めたのは 2.38mm=84.1%, 2.00mm=62.2%, 1.68mm=43.3%, 1.41mm=18.8%でタネの大きいほど発芽率が高いようである。

おおい土の量が少ないと乾燥などによって発芽率は低下し、極端に少なくなるほどタネの大小に関係なく悪くなる。またタネが小さくおおい土の量が多くなれば、大きいタネより発芽の低下する傾向が認められる。

大きなタネはかなり多くのおおい土によっても発芽するが 1m<sup>2</sup>=9ℓ以上になると発芽は低下するようである。またおおい土の量が多くなるほど発芽が遅れる

おおい土の量とタネの大小別による発芽



ようである。

2.00mm, 1.68mmのタネは5ℓ～7ℓのおおい土の量で良い発芽率をしめし、それより多くてもまた少なくても発芽の低下することが認められる。

一般にヒノキのタネについてのおおい土の量は「見えかくれ」程度が適量といわれているが、この量は5ℓ以下のものであるが、播種床に直接寒冷紗をおおいとして使用する管理方法は、以上の量よりやや多くのおおい土を必要とするように考えられる。

### ま と め

苗畑におけるタネの発芽は以上のおおい土の量のほかに、気象、土壌などの因子が大きく作用するし、一回の試験で結論は出来ない。特に本年は播種したあと降雨条件に恵まれたような傾向もあるから、このようなことを対象として、今後さらに試験を続行する必要がある。

## ヒノキ挿木養苗について (II)

大分県林業試験場 後 藤 泰 敬  
中 尾 稔  
吉 田 勝 馬

### 1. はじめに

第1報で穂長区分、挿木区分について報告したが、今回は、これをもとに穂作り（葉量）挿付深さについて検討を試みたので、その概要を報告する。

### 2. 試験方法

試料は、ホンピ11年生林より採穂し、表1のとおり

設定した。

### 3. 結果と考察

試験の結果は、表—2、表—3のとおりで、その概要は次のとおりである。

- 1) 活着率：各試験区とも平均97～100%で処理間の差はなく、良好である。
- 2) 発根率：発根は、1本でも発根しているものは

表—1

① 試験地	日田市田島町 田島苗畑 (土壌分析表—4のとおり)					
② 穂長	30cm					
③ 試験区分	区 分	①	②	③	④	⑤
	穂作枝下高	10cm	15cm	10cm	15cm	15cm
	葉量除去	1/3除去	1/3除去	無除去	1/3除去	無除去
	挿付深さ	10cm	10cm	10cm	15cm	15cm
	挿付本数	90本	90本	90本	90本	90本
挿付間かく 10cm×10cm, 穂作り後2昼夜浸水						
④ 月 日	4月29日採穂, 5月1日挿付, 3月4～5日測定					
⑤ 日覆等	日覆はダイオネットを用い9月末除去、挿付は案内挿し					

(注) 葉量除去方法は、左右の最下枝をそのままにして、第2枝から順次、枝下高10cm穂は6本、15cm穂は5本を、枝長の $\frac{1}{2}$ 切除し除去した。